

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	キリスト教と文化研究センター
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. キリスト教主義教育を大学教育の現場で実現するための調査・研究を行う。	→学内のキリスト教関係授業を支援する研究プロジェクトを発足させる。	B	B			
2. キリスト教と文化とが会おう問題をあつかう学際的な研究プロジェクトを推進する。	→学際的な共同研究プロジェクトを複数実施し、その研究成果にもとづいて研究紀要等を年1回発行する。	B	B			
3. グローバル化された現代社会が直面する諸問題を啓発するための企画を実施する。	→現代社会が直面する問題に関するフォーラムを年4回以上開催する。	B	B			
4. センター研究活動の成果を、迅速かつわかりやすく学内外に周知する。	→センターの活動・研究をデジタル化して公表できる体制を構築する。	B	B			
5. 日本におけるキリスト教平和学の情報発信・交換の拠点となる。	→他のキリスト教関連団体、平和活動団体等と共同した企画を年1回実施する。	C	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
	→	2009	2010	2011	2012	2013
	→					

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目0.0.1	RCCの規定に「本学のキリスト教主義教育の内実化を図る」ことが謳われているが、これまでキリスト教と文化に関するプロジェクトが主になされ、十分な取り組みがなされてこなかった。その反省から2010年度には「キリスト教主義教育」研究プロジェクトが立ち上げられた。	
★小項目0.0.2		
小項目0.0.3		
その他		

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目0.0.1	2010年度に立ち上げられた「キリスト教主義教育」プロジェクトを活発化し、調査・研究を行う。	
★小項目0.0.2		
小項目0.0.3		
その他		

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

○各目標の達成が進捗するように、さらに継続的に努力を重ねることが期待されます。
 ○関西学院大学の根本です。学生（教職員）は十分に理解していないのではないのでしょうか。「学生」という成人を意識せず、子どもでもわかるような冊子が欲しいように思います。また、テレビなどキリスト教に関する放送があるときなど、お知らせするといいいのではないのでしょうか。
 ○設定された目標が具体的に進展するよう期待しています。
 ○周知と公表によって、効果が表れることに期待します。その効果を測る工夫についてもお考えください。定期的な検証においても役立つものだと思います。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1
 基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」
 達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」
 ○小項目0.0.2
 基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」
 達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」
 ○小項目0.0.3
 基盤評価：なし
 達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし
